慈眼一〇〇号記念特別企画『お不動様と私』㊼

『幸せの法則』

深川不動堂篤信
江原啓之氏

慈眼一〇〇号を記念して昨年七月に行われた江原啓之氏の講演「幸せの法則」を掲載させて頂きます。

皆さまこんにちは。江原啓之でございます。まず冒頭に申しあげなければいけないのは、残念ながら今の日本は（平成三十年七月八日現在）、豪雨（西日本豪雨）により、大変多くの方々が被災されています。今の東京は、幸いにも好天に恵まれていますが、先ずは被災地の方々に寄り添う気持ちを持って、皆さまと一緒にお不動様へ一日も早い復旧への祈りを捧げたいと思います。

今の日本は、異常と感じるところがあります。この豪雨ですが、一部の報道局のみのニュースで、他局は普通にバラエティ番組を放送しています。今、安否不明の方が多数いる。そして家屋を失ってしまわれた方や救助を待っている方も多数おられる。だけれども普通に娯楽番組が放送されてしまっている。これは今の日本を象徴する現象だと思うんです。「自分さえ良ければいい」という考えがあり、自分に関係なければ「対岸の火事」という見方をされる人が大変多い。今日、参加されている方は、お不動様のご信仰が篤い人ばかりなので、「対岸の火事」という見方をされる人はいないと思いますが、人の気持ちに対して寄り添

う、また奉仕の気持ちが無い方は、お不動様からの御利益を得られることはあり得ないということを、理解しないといけないんです。人はついつい〝自分の事だけ〟を祈ってしまう。でも〝自分の事〟を祈る前に、他人を思いやる気持ちが無いといけないんです。他人への奉仕や行いは、やがて自分に返ってくるものです。お不動様は、その行動を常に見ていてくださるんだと思うべきなのです。

悲しいことに今の世の中は「愛念」というものが欠けているようにも感じています。例えば日々繰り返し報じられている「児童虐待」の問題について、一部の報道局しか取り上げない。これは異常なことです。この事に皆さんお気づきでしょうか？自分自身がこの異常に気付かなくなる…これが一番怖いことなのです。

つい最近、この近くでも悲しい事件が起こりました。私は神道の神職を持しているので、よくお参りに行っていました。周囲の方にも教えてあげていただきたいのですが、多くの人は、この事件がきっかけで、御利益は無いところだと言う。それは全くの無知です。なぜなら、それは神様からのニーズ（必要力）が強かったと考えるべきだからです。力が強いから起きた。太陽の光が強ければ、どんな闇も照らし出すように、些細な事や出来事も神様は見逃さない。ですから神様からのニーズが強いから起きたのだと考えるべきなのです。世間一般の人間における未熟さが照らし出されたんです。ということはどういう事かと申しますと、「そこにご利益が無い」と言っていること自体が愚かなのです。これが先ず一つ。そしてそこには「ニーズ（必要力）が強い」ということを理解すること。そして重要なのは、お不動さまも併せてのことですが、私たちは「常にいつもお不動さまや神様に光を照らされていても良いという姿勢」を持って祈らなければ、そこにご利益は現れないんです。自分の行動を棚に上げて、〝お願い、お願い〟では通じるわけが無い。今この場所で、お不動さまと眼をしっかり合わせて手を合わせて祈ることが出来るのか？そういう毎日を送っているのか？ということがとても大事なのです。ですから、自分の事を棚に上げて、お不動さまに自分のお願いを叶えて欲しいなんてことは、実に虫のいい話だということは、皆さんは良くお解りだと思います。お不動さまは「現世利益」を叶えてくれる仏様ですが、「現世利益」の意味を間違えて捉えてはいけません。何でも望みを叶えてくれると勘違いしてはいけません。

幸せの法則について

幸せには法則があるんです。それには必ず〝お代〟が

必要で、何においても望みを叶えるには、自分自身で何かをしなければならない。何でしょう？それは「努力」。あたり前ですが、努力せずして望みを叶えてくれる…なんてそれは大間違いです。そんなことはあり得ない。自分自身が「努力」という〝お代〟を払った上で祈らなければ、ご利益は生まれてこないんです。「人事を尽くして天命を待つ」ということが必要なのです。

人生は旅

私は深川のお不動様にとても縁があり、始めて参拝したのは物心ついたぐらい。お不動様に来ると、昔、祖母に連れられてお詣りした当時の小さい自分が見えるんですよ。私は下町の人間で、小さい時には信仰というより、行くとなにか参道で美味しいものを食べさせてもらえるという喜びで最初はお参りに来ていました。もう長い長い、半世紀くらいのお付き合いなんです。そして、私には姉がいるんですけれども、私の姉は、この深川不動堂で御詠歌をずっと習っているんです。それくらいお付き合いが深いんです。

また隣の八幡様、亀戸の天神様、浅草の観音様にも家族総出で行っておりました。このお不動様へは、ご縁日によくお参りに来ていました。ここに来るとよく思い出すことがあります。実は四歳の時に父を亡くし、十五歳の時に母を亡くしていまして、母は癌で亡くなりました。お医者様に余命三ヶ月と宣告されていたのですが、最終的には六ヶ月生きました。母を亡くす前の十四歳の中学生の時に、お不動様に聞いてもらいたいと思い、訪ねてお参りしたことがありました。母の病を治して欲しい。母が亡くなると私には両親がいなくなってしまう。その当時お詣りしたことを良く覚えています。小遣いで御札を頂いて持ち帰りました。勿論、結果的には願いは叶いませんでした。その時は、お不動様は私の願いを叶えてくださらなかったと思っていました。けれども、その後に「人生は旅」であることに気付く機会がありました。「人生は旅」なのです。私達は、あちらの世界から生まれて来て生きているのです。「人生の旅」は、「経験と感動」なのです。様々な経験をして感動する。感動とは〝喜怒哀楽〟です。嬉しいことばかりじゃないんです。〝喜怒哀楽〟が無かったら人間は成長しません。喜びだけでしたら人の苦しみは分かりません。悲しいことがあるから悲しみに寄り添うことができる。ただ、苦しみばかりでは人間が歪んでしまいます。喜びと楽しみを経験しないと、人を楽しませるにはどうすれば良いか分からなくなってしまうものです。ですから、〝喜怒哀楽〟全て必要なのです。

そして嫌なこと申しますが、さきほど私は昔に「母を死なせないで」とお不動さまに祈ったという話をしましたが、皆さん、例外なくいつかは必ず死ぬんですよ。若い方は、まだまだ先だから大丈夫なんて思っているかもしれませんが、そんなことありません。人生はあっという間なんです。たかだか百年なんてあっという間で瞬き同然、大差無いんです。こういうことを考えたら、ちっぽけなことで悩んでいてもしょうが無いんです。

「込める」ということ

大切なのは、どれだけ「長く生きたか」では無いのです。大切なのは目に見えないことで、どれだけ「込めたか」なのです。「込める」ことできます？あなたの人生でどれだけ「込めたか」わからないでしょう。どれだけ「長く生きたか」は表面で分かります。しかしどれだけ「込めた」かは、人の表面では分かりません。若い人たちは〝リア充〟と言ったりしますが、要はどれだけ自分の人生を充実できたかということが大事だと思うんです。それは正しいことばかりではないですよ。喜怒哀楽全てですから。人生には限りがあって、「人事を尽くして天命を待つ」…こう理解しています。このお不動さまに幼少期からお参りに来ているわけですが、私の父と母は人生の旅の中では、目的とし

て非常に短い人生だったと思うんです。けれども充実して「込めていた」と私は思っています。なぜかというと、両親を早くに亡くしていたから、今の私の姿があるんです。そうでなかったら今こういうお仕事をしていないと思います。ちょっと特殊な能力があるからといってね、こんなお仕事しませんよ。喜びも悲しみも苦しみも自分が乗り超えてきたから、人様に人生の道のりというものをお話をしたり、自分が救われたから、救いを求めてる人にお話ししたりできるのです。それが無かったら深いお話もできませんし、人に対しても寄り添うことが出来ないです。どれだけ自分自身がいろんな事を「込めてきた」かということが大切なのです。「人生は旅」なので生きた長さではなく、生きた全てに意味があるんです。

お不動様の奇跡

さすがお不動様と思うのは、いま私がこの場に立つことは正に現世利益のお不動様の奇跡だと思うんです。三歳の時から見てくださるお不動様が今日ここに来なさいよ、と声を掛けてくださった。母はこの世を去ったけれども、これこそが寄り添うということなんだと思うんです。こんなに長くかわいがってくださる、褒めてくださる。思いっきり転びなさい、思いっきり楽しみなさい。そして人の心が分かるようになりなさい。それが私に対するお不動様のメッセージだと思います。

感謝は金運

「占い」はカウンセリングとしては素晴らしいけど「安易な占い」には説得力はありません。特に金運。昇給があるわけでも無く、お金が落ちているわけでも無い。けど、「今日はラッキーな日です」なんて言われたりする。でも、私は金運はあると思うのです。どういうことかと申しますと、それは「感謝」です。金運とはお金だけではない。人様からご馳走になったり、些細なことでお世話になった時も皆さん二回はお礼を言ってますか？その場のお礼、そして次に会ったときのお礼。

相手は、この人は人の気持ちが分かる人だから、またご馳走してあげようかなという気持ちになる。だから感謝は金運というんです。そして金運を人生全てに例えるんです。今日一日を大事に生きているのか？また込めていっているのか？これによって人生が変わってくるのです。多くの人は大事にできていないんです。時間も含めて。ご馳走してくださる人は、相手に対して喜ばしてあげようとか、励ましてあげようとか、そういう気持ちでご馳走してくれている。その気持ちに対して応えることが出来ているのか？が大事なんです。

よく若い人が友達の結婚式が続いて、案内をもらっても、もう御祝儀が払えないのでお断りしようとする人がいる。私は何を言ってるの！と言うんです。手紙を相手様に書きなさいと言います。あなたを祝福したいのだけれど自分の生活がままならないと正直に話せばいいじゃないですか。それでも良いとなれば、お金の問題じゃなくて来てほしいの。大切なのは、その思いだと私は考えています。お金なんてあればだれでも払うことが出来る。だけど思いを「込める」ことが大切で、それが人生を開いていくという大切さであり、幸せの法則の一つなのです。

大我と小我

「大我」と「小我」という言葉があります。「大我」とは相手を思う、「小我」とは自分だけのことを考える。どちらが幸せになれるかといえば「大我」なのです。一般の人は「小我」のほうが幸せになれると思うんですよね。お金の貸し借りに例えると、お金を貸したが返ってこなくて悶々（もんもん）とする。それは自分の為に貸したからです。小我は「貸さないとケチに見られる。友達を失う。」これは自分の為に貸してるのです。大我では「この人のために敢えて貸さない。分かって欲しい」となるの。昔の人は、このような良いことを言っています。「ひとにお金を貸すときは『あげる』と思って貸しなさい」と。それは相手が貸すに値するかきちんと見極めて貸しなさいという意味です。これはとても重要なことで、これが出来ていないと子育てにも影響します。敢えて「あなたの為を思って、愛情を込めて、恨まれてもいいから今回は貸さない」と言えるかどうかなのです。本当に困っていないなら、あなたに変わってほしい、判ってほしいからという思いで敢えて断る。これが「大我」であり、子育てですべきことじゃないですか？

子育てのあるべき姿

今の子育ては友達みたいな関係がいいと思っている方が多いですが、大間違いです。親子は友達ではないの。親は親としての姿勢を見せなけれ

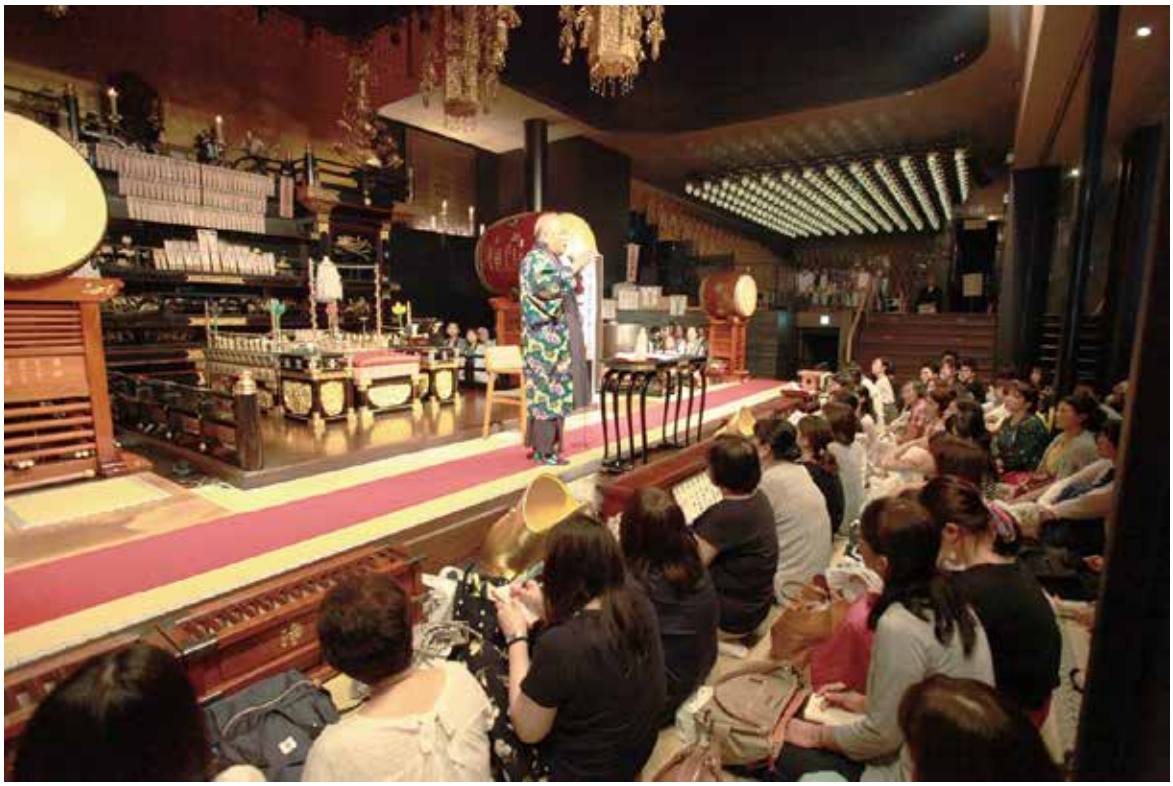
ばいけないんです。友達みたいな親であっていいと考えることは、罪であると考えています。子供の言動や態度、考え方に対して安易に「いいよね」と許して言ってしまう親は「小我」の親なのです。親としての姿勢を子供に見せないとだめなんですよ。世の中、バランスが崩れてきたのはそういう所ですよ。学校の先生を尊重するからこそ、先生もしっかり居ようとなる。どんな職業の人も自分の職業を守ろうという意識が出るんです。警察官や教師を馬鹿にしたりすると秩序が乱れるんです。尊重する。私たちは未熟なんですよ。だから一生懸命理想に近づこうと背伸びの演技が大事なんです。だから未熟なお母さんだけどお母さんとして頑張る。そして何でも甘やかしていいわけではなく我慢も必要だよとわが子に教えること。子供にサービスすることは違うと思う。相手を想う心があるからお不動様も見てくださるんじゃないですか。その心が無かったら先ずそこを正しましょう。何でも買ってあげることが良い親なんだ。サービスして媚びて…それは違うと思います。例えば、親はスマホに夢中になってしまい、子供が走りまわっていることを注意しない。挙句の果てに車に轢かれそうになっても親は気付かない。だけど友達みたいな関係なので、最後は「良いんじゃない」という言葉で片付けてしまう。それは違うと思います。「小我」ではなく「大我」をもって接することが大事であり、相手を思う心があるからこそ、お不動様も私たちを見てくださるんじゃないですか？その心が無かったらまずそこを正さなければならないと私は考えます。

たましいの法則

人生というのは面白いものであって、幸せの法則の中で大切にして欲しい法則があるんです。それは「たましいの法則」。人は死して魂は死なないんですよ。皆あの世から生まれてきて、あの世に帰るだけなんですよ。死んでもあなたはあなたですから。よく亡くなった人がかわいそうと言う方がいますが、亡くなった人には全てが見えているんです。だから死んで一番問題なのは辛い心なの。愛する人を失ったとき寂しく悲しいっていう気持ちを乗り越えるのは「愛」しかないんですよ。泣いて悲しんでいる人に対して敢えて私はとても冷たいことを言います。「最初は亡くなって寂しいから仕方が無い。でもいつまでも泣くのは失った自分が悲しんでしょ？」と。要は亡くなった人を思って悲しんでるんじゃ無いんですよ。

自分を戒める

人がつまづくのは、三つの原因しかないんです。一つは〝自己憐憫〟。「私ってかわい



そう。ついてない。」こういう方は永遠に抜け出せません。そして二つ目に繋がっていくんです。それは〝責任転嫁〟。「あの人が悪いから」といって、自分が悪いんだという自立心が無い。次に三つ目。これは〝依存心〟。「お不動様私を助けてください。」これがセットなんです。「私ってかわいそう。ついてない（自己憐憫）」→「だってあの人が悪いんだから（責任転嫁）」→「だからお不動様助けてください（依存心）」…常に「自分が…」というこの様な人、皆さんがお不動様だったら助けてあげようと思いますか？助けないでしょう。

幸せの法則には「波長の法則」があります。類は友を呼ぶということがある。「私の周りにはろくな人がいない」と言う方がいますけど、それは「貴方がろくでもない人」だからなのですよ。人の事を悪く言っても始まらないんですよ。人を悪く言うことは自分を悪く言っていることだから恥ずかしいの。だから言わない方がいいの。結局は「同じ穴のムジナ」なんです。何も助けは来ません。それには必ず〝お代〟が必要。〝人事を尽くして天命を待つ〟。自分自身の〝努力〟が必要なんです。お不動様の厳しい顔が、自分で自分を戒めなさいよと言ってくださっているんです。それに気付くことが大切だと思います。

子供達のために

魂は永遠ですが、今の世の中を長く生き抜くのは大変です。今はなかなか死なせてもらえない時代ですからね。だからお不動様にすがる前にエンディングノートを書きましょう。これは自分と家族に対しての愛です。親を亡くされた時の最後、親に対してあの様な形で良かったんだろうかと思う人多いんですよね。だからいつも言うんです。「親が悪いんだから気にするな」って。皆さんは延命処置をされたいですか？されたくなかったら、して欲しくないと元気なうちに書けばいいんです。そうすれば子供達が苦しむことが無くなるんですよ。そうすれば、子供さん達が迷わずに済むじゃないですか。いざとなったときに子供達に判断を委ねるっていうのは、子供さん達にとって非常に酷なことですよ。〝口伝え〟はだめですよ。証拠がないから。そういう時は、必ず親戚の誰かが子供達に「あの判断で良かったの？」って必ず言ってきますから…。そこで「本人の意思ですから」って言っても、「本当？」なんて返されますよ。きちんと書き記しましょう。そういう意味で子供達がいたずらに悲しまないようにすること。

安楽死について

それよりいけないのは、安楽死の問題ですよ。私は反対です。私の親しい身寄りの無い方が、いざとなったら殺して欲しって言うんです。安楽死で。役に立たないんだし。誰も路頭に迷わないからと。それは間違いですよ。それだったら自分の事だけ考えていることになる。相模原の障害者施設の事件（津久井やまゆり園）の事、皆さんまだ覚えていますか？あの犯人は施設の入居者を「役に立たないから」「生きていても意味がない」という理由から、殺してあげたというんです。しかも犯人は、正しいことをしたと今でも思っているんですよ。役に立たない者がいらないっておかしいんじゃないですか。優生論という考えがあり、この国には優生保護法で、障害のある人は子供を産めないようにされて、良いもの（遺伝子）だけを残そうという考えがありました。これが最近問題になってますよね。これを正当化してしまうと、相模原での事件の犯人の言い分も正しくなってしまう。また安楽死を望んでいる方と考えは同じになってしまう。安楽死を望んでいる方に、では相模原で亡くなった方は、仕方ないって事ですよねって質問すると、「いいえ、あれは生きていてくれることを望まれた方達だから私と違うからとても気の毒だ」って言うんですよ。でもね、実は今、全国の障害者施設のほとんどの方は、お年寄りになると身寄りがいない人がほとんどなんで

す。現実なんです。では、そういう方は生きる価値が無いんだという解釈になるんですか？って安楽死を希望されている方に聞くと、急にその方は話をはぐらかせてしまうんです。矛盾してますよね。そこにもう答えが出てきてますよね。私はその方に「どうか生き抜いて下さい」って言うんです。もし誰も面倒見てくれないんだったら私が看ますと言うんですが、「信じない」って疑うんです。悲しいですよね。価値が有るから生きるんじゃないんです。生き抜くことに価値があるんです。人生は旅ですから。だから、みっともないなんて思わないで最後まで生き抜いてください。人から「汚い」とか「そんな生き方して」って言われるような経験と感動なんて素晴らしいじゃないですか。そうすると人の気持ちがよくわかるようになるのです。

お不動様の教え

実はその経験から〝慈悲〟と〝慈愛〟が生まれてくるんです。〝慈悲〟と〝慈愛〟に満ちた仏様のように。人生に無駄は無いんです。もちろんそうなる前に感謝の気持ちを持っていたら、必ず色々な手が差し伸べられて返ってくるもんなんですよ。ですから自分自身の悲しみに寄り添ってもらうには、今、何も無い時、毎日から始まっているんです。どれだけ人の事を想って生きていますか？それが自分自身も幸せの量りになっているはずで、お不動様はそこを気付きなさいよと言っていると思うんです。これは「因果の法則」と言うんです。自らが蒔いた種は自ら刈り取るんです。愛の無い生き方をすれば自分に寂しい思いが返ってく

る。自分に愛が欲しかったら人に愛を与える。人の苦しみに寄り添う。でも「大我」の親の心で、「ああこれは違う、厳しく、いいよ私を嫌っても」という気持ちで愛情をもって言ってあげる。一度去るかもしれない。でもそれを温かく見守ってあげると必ず帰ってくるんです。分かるようになれば。戻ってきたときに、「あの時のあなたの気持ちが分かりました。あの時はありがとう」ってなった時に「あぁ良かった」と思えばいいんです。それは誰のため？それは「自分のため」でもあるんです。自分の愛の積み立て預金が一番大切なんです。

幸せになるために

幸せの法則のポイントを幾つか申しあげておきます。まず、愚痴の多い人、文句の多い人は幸せになれません。なぜかというと「類は友を呼ぶ」。文句を言う人は文句を言う人を引き寄せてトラブルになる。自分の事は見えていないのです。文句を言う前に自分でやった方がいい。文句は怠け心、怠惰ですよ。自分でやっていれば、誰かがきちんと見てくれているものなのです。でも計算してやっては駄目ですよ。それは嫌らしくなるから。「私と同じ給料なのに私ばかりしんどい仕事ばかり」とか言っては駄目なのです。仕事は最後には自分の身について帰ってくるものなのです。

気を利かす

次に気は〝遣う〟ものではなく、〝利かすもの〟。よく「私は気を遣いすぎて疲れてしまうんです」って言う方がいますが、それは「いい人だ」と思われたいだけなのです。〝気を利かす〟はエナジーです。気を遣うだけは気持ちが漏れているだけのことなんです。〝気を利かす〟とは違います。例えば、何人かで食事をするときに。気を遣って座る席を譲り合い、中々座らない。そこで気を利かす人は状況を見極めてさっと座って皆を座りやすくしてあげる。気を遣っているだけの人は、あの人図々しいと陰口を言ったりもする。そんなこと気にしなくていいんです。仮に足の不自由な方が後から来られたら、さっと席を譲ってあげたらいいんです。余計なことは一切言わないんです。こういう人が人生が上手くいく人なのです。「大我」の行動なのです。単にいい人に見られたい人は駄目です。

魂の年齢を知る

そして次、〝肉体の年齢〟、〝魂の年齢〟を覚えてください。〝肉体の年齢〟は今の実年齢、〝魂の年齢〟は経験と感動の度数なんです。幼くても立派な子っているんですよ。逆に信仰深いのに何でこんな考え方なの？という人がいるのは「自分だけを見て」という信仰だからなのです。自分だけ可愛がってもらおうっていう考え方になっているんです。例えば混んでいるときに仏様をお参りするとき、私は遠くからお参りするだけにします。何故なら神仏は遠かろうが近かろうが分かってくださると信じているからです。だけどね、中には押しのけて、我れ先にという勢いで前に出て行ってお参りする方もいる。これこそ「大・小我」ですよ(笑)。だから〝肉体の年齢〟、〝魂の年齢〟って大事なんです。今日お不動様をお参りされて家に帰ると、お姑さんに嫌みを言われるかもしれない。腹が立つかもしれませんが、そこで腹を立ててはいけません。同じ土俵に乗ってはいけません。同じ土俵に上がるということは、〝同じ魂〟なの。また〝同じ波長〟になるということなんです。お姑さんを憎いではなく、かわいいと思うんですよ。そうすると変わってくるもんなんです。経験と感動の積み重ねによる〝魂の年齢〟は、〝肉体の年齢〟と関係ないんです。

人生は加算法

そしてこれも大事です。〝減点法は止めよう〟。日本人って減点法をする人が多いんですよ。たいていの場合、初対面の人に対し、この人は「いい人」って言うの。あなたこの人の何を知ってるの？って思うのですが…。そしてちょっと粗が見つかると「こんな人とは思わなかった」っ

て言い始めるの。これ減点法なんです。人生は加算法。常にゼロ地点なの。友達の定義って何ですか？何か決まりがありますか？友達に裏切られた…とかよく言いますが、友達とは、各々が勝手に決めた依存心の妄想なのです。友達がいる・いない、あるいは多い・少ない…定義が無いのに馬鹿みたいな話。依存心が無ければ、ここにいる皆さん全て友達になるんですよ。今、私の目の前には何百人もの友達がいるんですよ。

孤高に生きる

次、〝孤高に生きましょう〟。NHKではよく「孤独死」と報道してますが、一人で死んでは駄目です。連絡が無かったら誰かに確かめてもらうようにきちんとエンディングノートを作っておきましょう。孤高に生きましょう。〝孤独〟とは違います。孤独は自分が悪い。工夫をしないから。依存するからいけないの。孤高、常に自分自身を自立させて生きること。例えば（江原氏が参加者に対し）「今日あなたはどこから来ましたか？」、（参加者）「千葉県からです」、（江原）「千葉って美味しいものいっぱいあるでしょう？」、（参加者）「まだ引っ越してきたばかりで分からないんです」、（江原）「千葉は海の幸やピーナッツやら沢山あるんですよ」…ほら、これで孤独では無いでしょう。コミュニケーションを自身から取ることによって「自己憐憫」、「責任転換」、「依存心」は無くなる。だから自分のことは自分で責任を持って生きよう。それが大事なの。お年寄りになって、お嫁さんとお孫さんと一緒に暮らしたいなんて言う人いますが、言わない方がいいの。それからお嫁さんに子供はまだ？なんて言う人がいますけど言っては駄目です。そっとしておきなさい。また結婚式の披露宴なんかで、新婦さんに「かわいい赤ちゃん産んで下さい」なんて言っちゃ駄目ですよ。世の中には子供が欲しい人、欲しくない人、欲しくても子供ができない人もいるんです。余計なことは一切言ってはいけません。そういうことで知らず識らずのうちに相手を傷つけてしまっているのです。だから〝気は利かすもの〟なのです。経験と感動があるからこそ分かるものなのです。そこには「想像力」、「思いやり」そして「愛」がとても大事になってくるわけです。

人生を「拓（ひら）く」

そして、自分自身で〝人生は切り拓（ひら）いていくもの〟。運命の法則では「開く」ではなくて「拓く」を使います。人生は自動で開かないの。自分で拓くんですよ。その努力が有って、お導きやお守りがあるんです。だからお詣りするとき自分がどれだけ努力して頑張っているかなということ

を計るとき、自分の努力が足りないときは行き辛い。その時は私は反省だけして帰るんです。長く長く半世紀にわたる深川のお不動様と私はそういうお付き合いをしてきたと思うんです。

言霊（ことたま）の力

そして言葉。私も注意しなければいけないんですが…。私は皆さんに分かってもらいたいと思って口が悪いんですよ（笑）。本当は心優しいんですよ（笑）。言霊に注意して生きましょう。日本は言霊文化です。

例えば「猿」は「去る」に通じて縁起悪いから「エテ公」（得て公）と言うんです。だから「エテ公」って相手に言われたら、それは馬鹿にされているんでは無くて実は縁起の良い言葉なんです。だからね、いいことだと思いましょう。「ありがとう」って（笑）。

「するめ」は（擦る）（掏る）という縁起悪さから「あたりめ」（当たり目）と言うんです。これは日本の言霊文化からなんです。言葉は大切なんです。だから辛いときにこそ「幸せ！」って言うんです（笑）。そういう前向きの言葉が大切なんです。

本日は皆さんにお目にかかれてありがとうございました。お不動様のお導きによるご縁に感謝申しあげます。今日のお話が皆さんの何か人生でお役に立てて頂けたら幸いです。最後までご清聴ありがとうございました。

江原啓之氏プロフィール
スピリチュアリスト、オペラ歌手。一般財団法人日本スピリチュアリズム協会代表理事。吉備国際大学ならびに九州保健福祉大学 客員教授。